

## 観光ビジネス学科学修成果報告（2018年度）

### STUDENTS' LEARNING OUTCOMES IN THE DEPARTMENT OF TOURISM BUSINESS (2018 REPORT)

金井 典子 ・ 佐藤 美輪 ・ 小形 美樹 ・ 成澤 広幸

Noriko KANAI

Miwa SATOU

Miki OGATA

Hiroyuki NARUSAWA

キーワード：学修成果 成長感 自己評価 定量分析 定性分析

Key words : learning outcomes, sense of progress, self-assessment, quantitative analysis, qualitative analysis

#### 要 旨

観光ビジネス学科1期生卒業時に、学修成果に関する自己認識を知るための調査を実施した。回答した1期生24名の結果のうち、定量データからは実践力、人間関係力の自己評価が高く、定性データからも実践力、人間関係力について高い水準での獲得と認知をしていることが示された。成長感については、90%以上が成長を実感している結果が示された。2期生以降については、1年終了時と卒業時の経年変化を追い、観光ビジネス学科の授業およびカリキュラムの充実のための資料としていく。

## 1. はじめに

学生が入学後、どのような学修行動を行い、それがどのような成果に結びついているかを知るとは、日常的な授業や指導の際に有益な指針となる。さらに学科としてのカリキュラムの編成方針に大きな影響を与える。つまり学生がより良い学修成果を獲得できるような形にカリキュラムを改定し続ける不断の作業の方向性を示す大きな指標となるのである。

そのため本学科では、設置2年目（2017年度）の終わりに在学生を対象とした学修成果に関する調査を実施した。以下に示すのがその結果である。とはいえ、初回の調査なので分析は限定的とならざるを得ない。今回の調査はいわば比較の原点としての意義を持つものといえよう。このような学修成果に関する調査が継続的に実施されることで、学科の授業運営や学生指導、カリキュラム改訂などがより良い方向に向かうことが期待される。

## 2. 調査の概要

観光ビジネス学科の学修成果（到達目標）は、以下の通りである。この学修成果に基づきアンケート調査を実施した。

【基礎力】広い視野を持ち、深い知識と技能を修得し、観光ビジネスの現場で実践的に使うことができる。

- ①総合的な判断力の基礎を養うことができる。
- ②多角的な視野から物事を思考し、本質を見極め、問題解決に取り組むことができる。

【実践力】複雑化する現代社会において、豊かな教養を身につけ、職業人として多角的に物事を見つめることができる。

- ①基本的なビジネスマナーを身につけ観光ビジネスの現場で実践することができる。
- ②収集した情報を状況に応じて適切に判断し、活用することができる。

【人間関係力】豊かなコミュニケーション能力を身につけ、職業人として自己の能力を発揮することができる。

- ①積極的かつ意図的にコミュニケーションを作りだす

ことができる。

- ②他者の考えや立場を理解し、自分の意見を述べることができる。

【生涯学習力】継続してキャリアを積むことにより、さらなる業務遂行能力をはじめとする人間的成長ができる。

- ①生涯にわたって、課題を発見し、解決する力を身につけることができる。
- ②時代の変化に応じ、生涯を通じて自分のキャリアを形成していくことができる。

【地域理解力】職業人として地域社会の活性化に貢献することができる。

- ①職業や勤労に対する理解を深め、地域で意欲的に働くことができる。
- ②地域での活動に積極的に参加し、役割に即した活動の成果をあげることができる。
- ③東北地方の歴史、文化、社会、経済、観光資源について理解し、地域社会に貢献することができる。

（注）太字は定性的データを分析する際にカテゴリとしたキーワードである。

（3.2 定性データの検証）

### 2.1 調査の目的

本調査の目的は以下の3点である。

1. 観光ビジネス学科1期生の学修成果の自己評価を把握する。
2. GPA評価を客観的達成評価と捉え、自己評価との相関関係を探る。
3. 学修成果に記載されない事項についての達成感があるかを探る。

### 2.2 調査の方法

本調査は本学研究倫理審査委員会の承認を得たものである。2018年1月に観光ビジネス学科1期生と2期生に学修成果に関するアンケート調査を実施した。本学栄養学科による調査結果を参考にアンケートを作成した。<sup>1)</sup> 質問項目は、観光ビジネス学科の学修成果11項目について4件法による自己達成度評価（1：全くそう思わないー4：強くそう思う）、自己成長の認識4件法、成長のきっかけの順位づけ、学修成果・自己成長についての

定型自由記述、入学時の進路目標（選択）で構成した（資料）。各学年とも、学生は必修科目の最終時間に、教員からアンケートの主旨、倫理的配慮、回答の任意性の説明を受け、オンラインにより回答を提出した。回答の提出をもって研究参加の同意とみなすこととした。回答数は、1期生24名（回収率77%）、2期生37名（回収率84%）であった。

学修成果は2年間のカリキュラムを経て完成されるものであるため、GPAとの相関については、1期生のみを対象とした。分析には、SPSS STATISTICS 25およびエクセル統計を使用した。

### 3. 調査結果と考察

#### 3.1 定量データの検証

前述の調査の目的に沿い、分析の結果を順に記す。学修成果11項目は5つの力「基礎力」「実践力」「人間関係力」「生涯学習力」に属しているがその関係は表1の通りである。以降、11項目は基礎力①～生涯学習力③と記す。質問紙は学修者側への問いかけであるため、学修成果の語尾を一部変更し、質問項目とした。

#### 3.1.1 学修成果11項目の自己評価分布

学修成果11項目の自己評価の結果を図1に示す。回答4および3の合計を見ると、特に実践力①が95.8%、人間関係力①が87.5%、人間関係力②が87.5%と高い結果であった。一方、地域理解力①②③については、回答1：全くそう思わないを選択した学生が少数いた。

1期生の学修成果の自己認識は高い傾向にあることがわかる。80%を超えた項目は、ビジネスマナーの実践、他者とのコミュニケーションの内容であり、2年間のカリキュラムの中でも特に実践的な学びから得られる学修成果といえるだろう。実践的、体験的な学修によって得られた見地は、やはり学修者側も学びの実感として受け取っていることがうかがえる。

表1：学修成果11項目

基礎力	基礎力①	総合的な判断力の基礎を得ている。
	基礎力②	多角的な視野から物事を思考し、本質を見極め、問題解決に取り組むことができる。
実践力	実践力①	基本的なビジネスマナーを身に付け、観光ビジネスの現場で実践することができる。
	実践力②	収集した情報を状況に応じて適切に判断し、活用することができる。
人間関係力	人間関係力①	積極的かつ意図的にコミュニケーションを作り出すことができる。
	人間関係力②	他者の考えや立場を理解し、自分の意見を述べることができる。
生涯学習力	生涯学習力①	生涯にわたって、課題を発見し、解決する力を身に付けている。
	生涯学習力②	時代の変化に応じ、生涯を通じて自分のキャリアを形成していくことができる。
地域理解力	地域理解力①	職業や勤労に対する理解を深め、地域で意欲的に働くことができる。
	地域理解力②	地域での活動に積極的に参加し、役割に即した活動の成果をあげることができる。
	地域理解力③	東北地方の歴史、文化、社会、経済、観光資源について理解し、地域社会に貢献することができる。

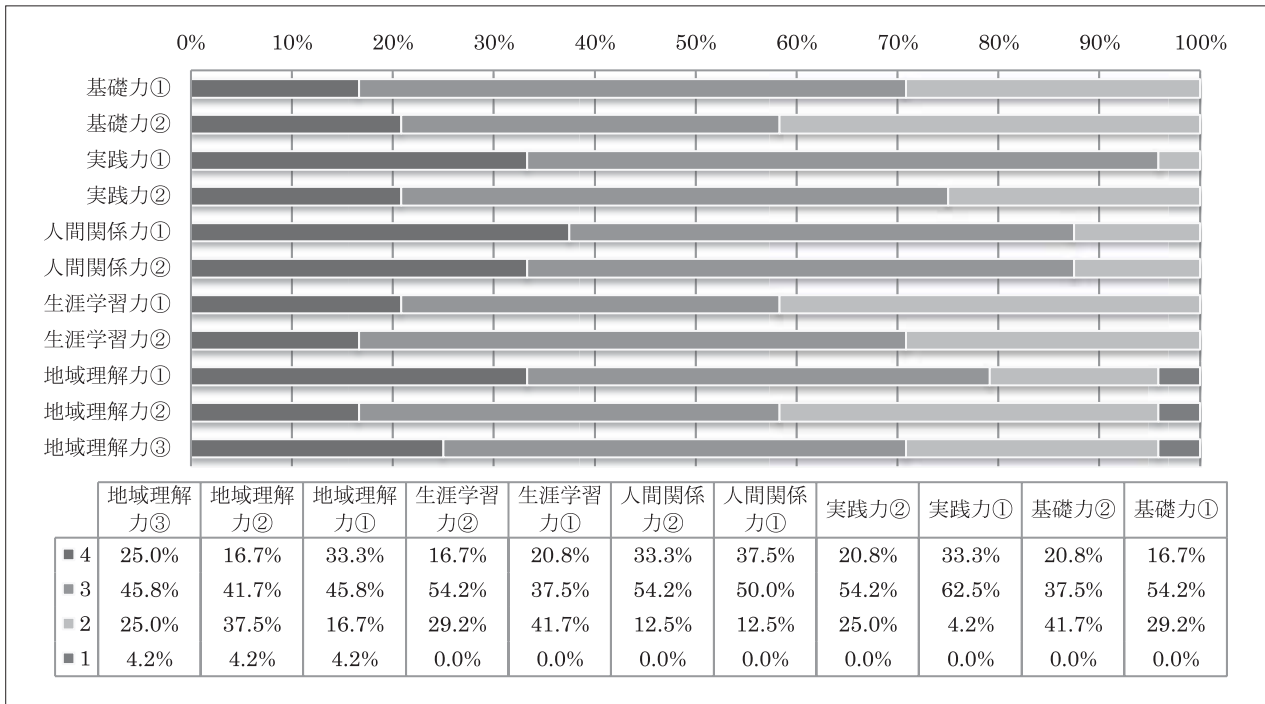


図1：学修成果11項目の自己評価（1期生 n=24）

### 3.1.2 1期生と2期生の自己評価の比較

11項目の自己評価の分布を学年別の箱ひげ図に表す（図2、図3）。本来、1期生のデータは卒業時の継続調査により経年比較をするためのものであるが、1期生と2期生を比較してみると、2期生では、4を回答する学生がいる一方、2や1の回答を選ぶ学生もいることがわかる。学修成果

は2年間の学修にわたり達成されるべきものであることを考えると、2期生の回答にはバラつきが大きく、1期生の回答には大きなバラツキはみられないことは、カリキュラム編成の妥当性を表すものと考えることができる。2期生の卒業時の継続調査による比較により、より明らかな考察を提示したい。

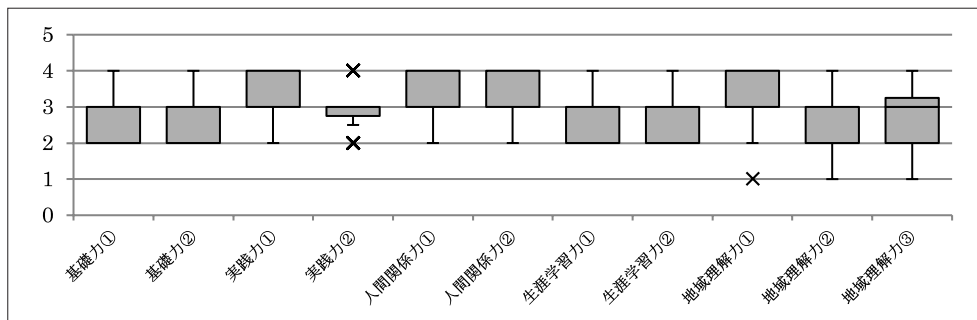


図2：学修成果11項目回答の箱ひげ図（1期生）

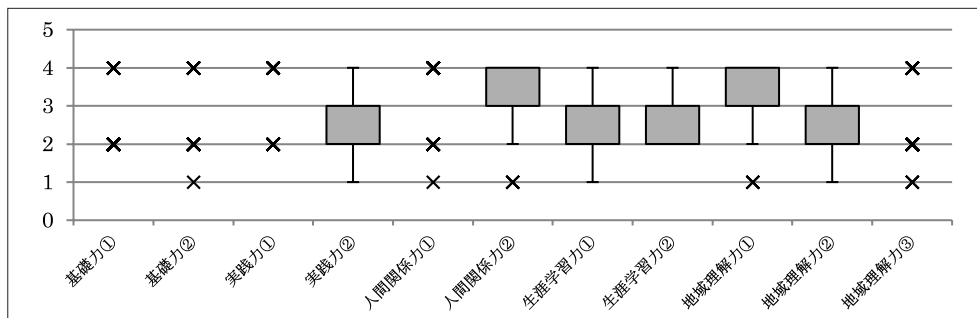


図3：学修成果11項目の箱ひげ図（2期生）

### 3.1.3 GPA 上位群と下位群の自己評価の検定

1 期生の 2 年間総合 GPA より上位群（3.00 以上）と下位群（3.00 未満）の 2 群に分け、GPA の高低と自己評価の得点の差を検討した。被験者のうち GPA 上位群は 9 名、下位群は 15 名であった。自己評価得点は、学修成果 11 項目を大項目である「基礎力」「実践力」「人間関係力」「生涯学習力」へと合算し、それぞれ基礎力得点、実践力得点、人間関係力得点、生涯学習力得点とした。上位群と下位群の平均値と標準偏差を表 2 に示す。2 群は Levene の検定により等分散とみなすことができた。GPA 上位群と GPA 下位群との母平均が同じであるという帰無仮説のもとで t 検定を行ったところ、いずれの得点にも 5% 水準で有意差は見られなかった。

あわせて、11 項目の回答の比率について GPA 上位群と下位群に差があるかを  $\chi^2$  検定により検討したが、11 項目いずれも GPA 上位群と GPA 下位群の回答比率に有意差はみられなかった。

これらの結果から、学修成果の客観的指標である GPA と学修者個人が評価する達成感は必ずしも一致しないということが読み取れる。つまり、1 期生については、GPA 評価の高低に関わらず、学修成果を獲得したという認識を持っていることがわかる。ただし、本調査では、個々の科目と GPA の関連や個々の科目と学修者の自己評価を検定することをしていないため、GPA 評価と自己評価については検討の余地は残されているといえよう。

表 2：GPA 上位群と下位群 記述統計

	GPA 群	度数	平均値	標準偏差
基礎力得点	下位	15	5.47	1.30
	上位	9	6.00	1.50
実践力得点	下位	15	6.13	1.13
	上位	9	6.44	1.13
人間関係力得点	下位	15	6.33	1.29
	上位	9	6.67	0.87
生涯学習力得点	下位	15	5.53	1.46
	上位	9	5.89	1.17

### 3.1.4 成長の実感ときっかけ

本学での短大生活を通じて成長できたと思うかという問いには、1 期生の 25% が強く思う、67% がそう思う、8% がそう思わないと回答した。全く思わないは 0% であった（図 4）。2 期生は 24% が強く思う、49% がそう思う、24% がそう思わない、3% が全くそう思わないと回答した（図 5）。1 期生は 90% 以上が短大生活での成長感を得て卒業を迎えていることが示された。あわせて、1 期生についての成長のきっかけを提示する。選択肢から順位づけで 3 位まで選び、1 位を 3 点、2 位を 2 点、3 位を 1 点として得点化し、回答者全員が 1 位とした場合に対する得点率で表した結果が図 6 である。アルバイト経験が 68.1% と突出して高いことが示された。

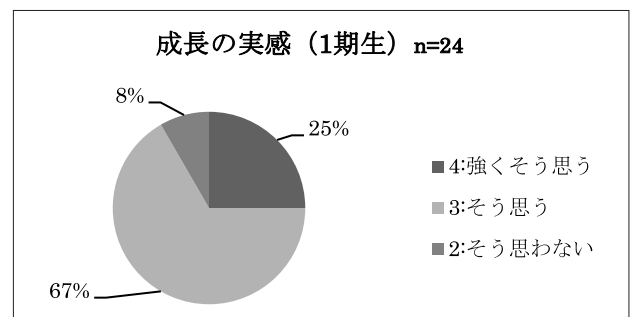


図 4：成長の実感（1 期生）

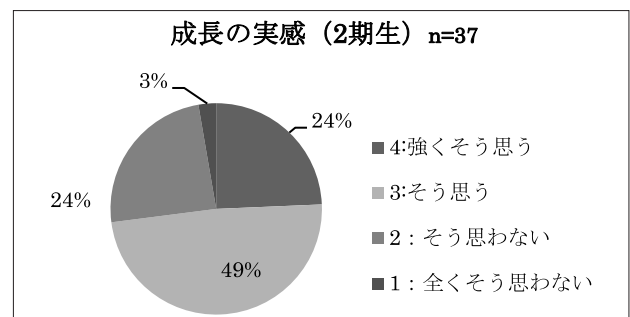


図 5：成長の実感（2 期生）

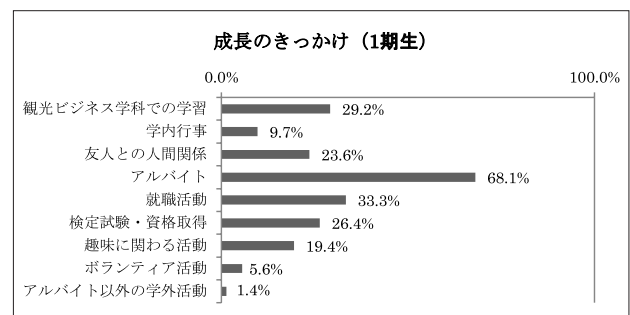


図 6：成長のきっかけ（1 期生）

### 3.1.5 希望業種と決定業種の比較

1期生の入学時希望業種と卒業時決定業種の結果が図7である。

入学時は50%（12名）が旅行代理店を希望しているにもかかわらず、卒業時は0%であった。これは、旅行業界に挑戦するものの、狭き門となっているため内定を勝ち取ることができず、希望業種を変更している結果である。ホテルを希望する者は入学時17%（4名）であったが、卒業時は38%（9名）に上昇し最も高い結果であった。さらに、一般企業においても、入学時は4%（1名）と低い数値であったが、卒業時は29%（7名）と、大幅な増加が見られた。具体的な業種は、自動車業界や美容業界、金融業界である。

希望業種と決定業種が一致した者は13%（4名）であり、内訳はホテル1名、鉄道1名、航空1名、一般企業1名である。

今後、2期生のデータについても卒業時の継続調査により経年比較を行っていきたい。

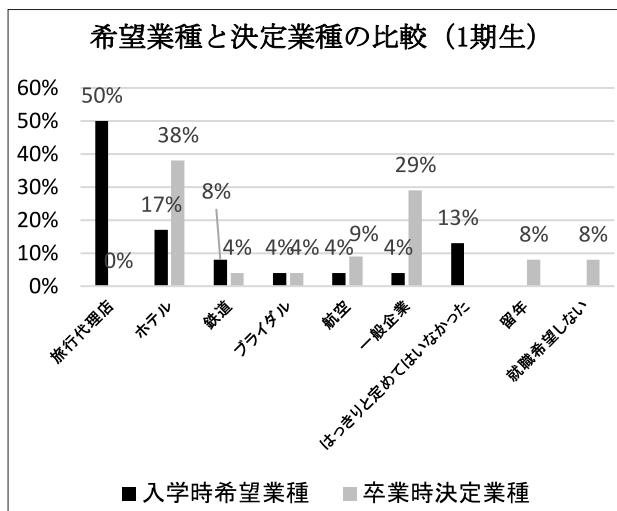


図7：希望業種と決定業種の比較（1期生）

### 3.2 定性データの検証

アンケートの14問は下記のとおり、短大における学修の成果を本人がどのように捉えているかを記述する設問であった。ビジネスの世界においては、「わかる」と「できる」は違うとされ、できなければ真に会得したとは認められないことも多い。よって、設問は、「できる」と「理解できる

(わかる)」を分け、さらに「理解できる」の域までには達しないが、短大時代の学びをきっかけに「興味・関心をもつ」に至ったことについても問う設計とした。

14. 以下の文章の「 」に言葉を入れて、文章を完成させてください。【複数回答可】。  
 答えの前には、(ア)～(ウ)の記号も入れてください。同じ記号の文章を何回使用しても構いません。複数答える時は、改行してください。  
 私はこれまでの短大生活で、  
 「  
 」  
 (ア) ができるようになったと感じている。  
 (イ) が理解できるようになったと感じている。  
 (ウ) に興味・関心をもつようになったと感じている。

本問については、回答者全員が記述し、1期生から33件、2期生から59件の回答を得ることができた。しかし、記号の入力がなく、ア・イ・ウのどれに該当するか判断できないなどの不備がある回答があった。また、1つの文章に「ビジネスマナーや日本の観光に関すること」のように2件以上の言葉を記述しているものもあった。よって、不備のある回答については除外、1文に複数の言葉を記述したものは分割してカウントし直した。その結果、有効回答は1期生34件、2期生61件となった。

本節では、これらの自由記述を分析し、1期生と2期生が本学での学びをどのように捉えているかを把握する。

#### 3.2.1 分析方法

複数回答可であったが上述のように回答数も多くなく、短い単語で記述されていたので、全記述を対象に語彙分析を行った。具体的には、観光ビジネス学科の学修成果（到達目標）の5つの力「基礎力」「実践力」「人間関係力」「生涯学習力」「地域理解力」に記述されているキーワードとなる語彙をカテゴリーとし、学生たちの記述を「わかる」「できる」「興味・関心を持つ」という段階ごとに分類し\*、マトリックス図（表3）を作成して可視化し、学生たちが自分たちの学修成果をどのように捉えているのかを分析した。

表3：自由記述から捉えた学修成果

【1期生（2017年度2年生）】

5つの力 件数	カテゴリ（キーワード） 件数	できる 「～ができるようになった」		わかる 「～が理解できるようになった」		興味・関心を持つ 「～に興味・関心をもつようになった」	
		記述（補正後）	件数	記述（補正後）	件数	記述（補正後）	件数
基礎力 13 (38.2%)	観光ビジネス 11			なぜその観光地が人気なのか	1	旅行 旅行の歴史 観光に興味、関心 世界の観光地 海外 インバウンド 食	4 1 1 1 1 1 1
	広い視野 2					ニュース 広範囲の物事	1 1
実践力 6 (17.6%)	ビジネスマナー 5	ビジネスマナー	1	ビジネスマナー	1	ビジネスマナー	1
	情報活用 1	パソコン操作	1				
人間関係力 11 (32.3%)	自分の意見を述べる 3	人の気持ちを考えられる 人前で発言や発表 人前で話すこと	1 1 1				
	人間関係 3	良好な人間関係を築くこと	1	人間の心 人間関係	1 1		
	他者の考えや立場 3			自分以外の人の考えや価値観 誰の意見でも	1 1	他人	1
	コミュニケーション 2	初めて会った人とも気軽にコミュニ ケーションを取れること	1			日本以外の国の人たちとの交流	1
生涯学習力 3 (8.8%)	業務遂行力 3	一人で行動すること 細かなスケジュール管理 自分で計画を立てて行動	1 1 1				
地域理解力 1 (2.9%)	職業や勤労に対する理解 1			アルバイトを通してお客様のニーズ	1		
	34		11		8		15

【2期生（2017年度1年生）】

5つの力 件数	カテゴリ（キーワード） 件数	できる 「～ができるようになった」		わかる 「～が理解できるようになった」		興味・関心を持つ 「～に興味・関心をもつようになった」	
		記述（補正後）	件数	記述（補正後）	件数	記述（補正後）	件数
基礎力 24 (39.3%)	観光ビジネス 20	観光についての知識を深めること 観光の視点で物事をみること	1 1	観光ビジネス インバウンド 観光地理 マーケティング戦略	2 2 1 1	航空（関係） 日本の観光 インバウンド マーケティング 観光の具体的なこと 海外 世界遺産 日本史 地理的なこと	2 2 2 1 1 1 1 1 1
	広い視野 4					ニュース 社会 現代社会 自分の知らない世界	1 1 1 1
実践力 11 (18.0%)	ビジネスマナー 7	ビジネスマナー 敬語	4 1	ビジネスマナー	1	ビジネスマナー	1
	情報活用 4	多読 英語での短いプレゼンテーション ビジネス英会話	1 1 1			英語の学習	1
人間関係力 8 (13.1%)	自分の意見を述べる 5	プレゼンテーション リーダーシップが取れるようになった 周りの意見を聞きつつ自分の意見も 発信し、グループで話し合うこと 人前で緊張せずに発表すること	2 1 1 1				
	人間関係 2			ホスピタリティー 社会人としての人とのかかわり方	1 1		
	コミュニケーション 1	以前よりも親しくない人ともコミュ ニケーションを上手にとること	1				
生涯学習力 4 (6.6%)	業務遂行力 2	計画的に行動すること 自分で考えて判断すること	1 1				
	キャリア 2			社会に出ていく身として自分はどう あるべきか	1	社会人になること	1
地域理解力 13 (21.3%)	職業や勤労に対する理解 9			観光業界 観光業界に携わる様々な職に関し て、その会社の歴史や成長ぶり、成 功の要因など 旅行業	1 1	観光ビジネスに関する職業 観光を知りさまざまな仕事 航空業界 添乗員 色々なサービス業	1 1 1 1 1
	地域理解 4	仙台藩の説明	1			伊達政宗 宮城の歴史 地域の細かな特徴、魅力、問題点など	1 1 1
	その他 1 (1.6%)	バレーボール	1				
	61		20		13		28

なお、カテゴリーとした語彙は、観光ビジネス学科の学修成果から抽出したため、例えば、「地域理解力」に「職業や勤労に対する理解」が属している。このカテゴリー（語彙）であれば、「基礎力」や「生涯学習力」にも該当すると思われるが、分析にブレが生じることを避けるため、あくまでも、キーワードとなる語彙が5つの力のどこに所属しているかで分析している。

### 3.2.2 分析の結果

表3に整理した回答の分布から概観すると、1期生2期生とも、「実践力」「人間関係力」については「できる」レベル、「基礎力」「地域理解力」については、「興味・関心を持つ」レベルと認識されていることがわかる。また、「生涯学習力」については、回答件数が少なく、短大の短い修業年数では、卒業後の長期的な展望までは描きにくいことが推察された。以下、具体的に回答の内容を検討する。

まず、「基礎力」の「観光ビジネス」に分類されたのは、1期生の「旅行」4件、2期生の「インバウンド」3件、「航空（関係）」「日本の観光」のそれぞれ2件であった。また、それらに類する回答では、「世界の観光地」（2期生）や「観光の具体的なこと」などがあつた。1期生は11件、2期生は20件が該当したが、1期生は11件中10件が「興味・関心を持つ」レベルであった。おそらく、「観光ビジネス」に関する内容は学校では座学で学んだからであろう。2期生については、1年次修了時点で「わかる」レベルとしての回答が6件、「できる」レベルの回答が2件あつたが、学生数が1期生よりも増えたので、受け止め方に差が出たと推察される。また、「広い視野」には「ニュース」などが該当した。こちらは1期・2期生とも「興味・関心を持つようになった」を選択して回答している。以上の「基礎力」については、1期生が13件（38.2%）、2期生が24件（39.3%）と双方とも回答の4割を占めていた。

次に「実践力」の「ビジネスマナー」は、複数学生の回答そのものも「ビジネスマナー」と学修

成果の語彙と一致した記述が1期生で3件、2期生で6件あつた。1期生については「マナー」との記述が2件あつたが、短大での学修内容から「ビジネスマナー」を指すものと思われる。また、1期生・2期生とも、「できる」「わかる」「興味・関心を持つ」のそれぞれの段階に回答があり、学生によって修得度合が違ふことが窺われた。「できる」とする回答は1期生では2件、2期生では4件あつたが、授業で学んだことをアルバイト先などで実践する機会が多く、会得した状況を把握しやすかつたためであろう。

そして、「人間関係力」に該当する回答の件数は、1期生では11件（32%）、2期生では8件（13%）であつた。「自分の意見を述べる」「人間関係」「コミュニケーション」などがキーワードであり、これらの能力は1期生のほうが「できる」ようになったと認識していた。おそらく学生生活を2年体験し、授業におけるプレゼンテーションの機会や、アルバイトや就職活動の経験が増えたためであろう。

「生涯学習力」については、1期生3件（8.8%）、2期生4件（6.6%）とも件数は多くないが、1期生では「1人で行動すること」「細かなスケジュール管理」「自分で計画を立てて行動」、2期生では「計画的に行動すること」「自分で考えて判断すること」ができるとの回答があり、「業務遂行力」を身につけたことが窺われた。

「地域理解力」に関連する回答は、2期生のほうが13件（21%）で1期生の1件（3%）を大きく上回つた。「興味・関心を持つ」「わかる」というレベルではあるが、1期生に比べて観光ビジネス学科の学びを通じて、「職業や勤労」について一層の興味を持つようになったものと思われる。また、具体的に「伊達政宗」「宮城の歴史」と地域の何に興味を持ったかを記述している回答もあつた。

## 4. おわりに

今回の調査では3つの調査目的について興味深い結果が得られた。まず学修成果11項目について



は、学生が比較的高い自己認識結果を示すものと、そうではないものとの対比が浮かび上がってきた。また、そういう自己認識と GPA との相関性が必ずしも有意ではないことが明らかとなった。さらに学生生活で自分が成長できたかについては1期生が9割以上、2期生は7割以上が肯定的という結果であった。

このような調査は今回が初回なので、現時点で断定的な判断をするのは慎まねばならないが、学年ごとの相違など、示唆するものは多いと言えるだろう。今後、さらに調査を重ねることで学生の期待に応える方向で学科の態勢を検討し直す契機に繋げて行きたい。

### 参考資料

- 1) 高泉佳苗 後藤未希 平沢和樹 佐藤玲子 (2017).「本学栄養学科第一期生の学習成果および進路に関する調査」研究紀要青葉 Seiyō, 9 (1), 71-78.

\* 自由記述などの定性的なデータは、解析ソフトを用いて定量的なデータに変換してテキストマイニング法により頻出キーワード分析などを行うことが効果的である。しかし、本調査については、回答数が少なく、また、記述のほとんどが短い単語であったため、全回答対象に独自の語彙分析を行った。

## 観光ビジネス学科 学習成果アンケート

- 質問項目は、選択肢と自由記述があります。もれなく回答してください。
- 最後に学籍番号を忘れずにご記入ください

[1]以下の①から⑩について、今のあなた自身の状況をどう思いますか？それぞれについてあてはまるものをひとつ選んでください。

全く思わない  1  2  3  4 強く思う

- ①総合的な判断力の基礎を得ている。
- ②多角的な視野から物事を思考し、本質を見極め、問題解決に取り組むことができる。
- ③基本的なビジネスマナーを身に付け、観光ビジネスの現場で実践することができる
- ④収集した情報を状況に応じて適切に判断し、活用することができる。
- ⑤積極的かつ意図的にコミュニケーションを作り出すことができる。
- ⑥他者の考えや立場を理解し、自分の意見を述べるることができる。
- ⑦生涯にわたって、課題を発見し、解決する力を身に付けている。
- ⑧時代の変化に応じ、生涯を通じて自分のキャリアを形成していくことができる。
- ⑨⑩職業や勤労に対する理解を深め、地域で意欲的に働くことができる。
- ⑩地域での活動に積極的に参加し、役割に即した活動の成果をあげることができる。
- ⑩東北地方の歴史、文化、社会、経済、観光資源について理解し、地域社会に貢献することができる。

[2]あなたの今の状況にあてはまるものを選んでください。  
 12. 2-1 あなたは本学での短大生活を通じて成長できたと思いますか？

全く成長してないと思う  1  2  3  4 とても成長したと思う

13. 2-2 あなたの成長のきっかけとなったことは何ですか？下記の中から3つ選び、順位をつけてください。

	1位	2位	3位
観光ビジネス学科での学習			
学内行事			
友人との人間関係			
アルバイト			
就職活動			
検定試験・資格取得のための学習			
趣味に関わる活動			
ボランティア活動			
アルバイト以外の学外の活動			

[3]あなたの今の状況について、自由記述でお答えください。

14. 以下の文章の「 」に言葉を入れて、文章を完成させてください【複数回答可】。答えの前には、(ア)~(ウ)の記号も入れてください。同じ記号の文章を何回使用しても構いません。複数答える時は、改行してください。

私はこれまでの短大生活で、

「 」

- (ア) ができるようになったと感じている。  
 (イ) が理解できるようになったと感じている。  
 (ウ) に興味・関心をもつようになったと感じている。

[4]入学時のあなたの状況を思い出し、あてはまるものを選んでください。

15. 観光ビジネス学科に入学した時、どのような進路目標を持っていましたか？あてはまるものをひとつ選んでください。

- ホテル  プライダル  旅行代理店  一般企業  鉄道  航空  
 はつきりと定めていなかった

16. あなたの学籍番号を記入してください。

17. 回答日を記入してください (1月12日⇒01/12)

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

観光ビジネス学科教員一同

資料：質問紙